

あらん」金「そりや不可ません、此の將棋は戰場を形どつたものでござりますれば先手後手の争ひはあるもので、金なら金、歩なら歩と仰しやれ」若「喧しい爺ぢやな、宜いわ、歩ぢや」金「歩で御座りまするな」若「アツ、待てよ金にいたさう」金「何ちう事を仰せになります、武士の言葉に二言は御座らん、歩なら歩で宜しい……」カラ／＼バチン 若「サア、金で御座ります、私が先に参ります」金「可怪な爺やなア」此の石部金吉郎は何の位差せる將棋かと云ふと二段の上差で、これも若君とは大分開きます、それに平手で差出したから堪りません、十六手、二十手と差して行きますと、殿の王様は又彼方へ逃げ此方へ逃げ廻り、仕舞には銀を横へ逃げんらん様になつて來たが、前に止められてあるから行かれん、若君は石部の顔と駒とを七分三分に睨み分けてソツと内所なほしよで銀を横へ寄せた。金「アイヤ若君、銀は横へ寄せません」若「宜い／＼、金を斜に下つて入合せをする亂世に金銀の狂は當然ぢや」金「そんな二輪加みたやうな事は石部は嫌ひで御座います……桂馬は幾つお飛びになるので」若「予の桂馬は名馬ぢや、此の位飛ばんと戰場の間に合ふと思ふか」金「先程から若君には敗軍の體に御座ります、敗軍の時には總て人馬とも足を痛めて居ります、さうお急ぎあそばさずにポツ／＼お出であそばせ」若「怪體な爺やな」金「香車は何處へおやりになります」若「予の香車は東山寶藏院流で練磨れんまいたして居る、此の槍先が受けられるなら受けてみよ」金「そりや不可ません、そんな香車は先程千段卷の邊あたりから打切つて御座いますマアポツ／＼お出であそばせ……王さんを何處へお出でにな

りますか、そこは角道ぢや御座いせんか、何故銀の頭へ王を持つてお出でになります」若「さう申せば予の王の行く所がないわい」金「然らば若君はお取けで御座います」若「黙れ、主が家來に敗けると云ふ法やあらん」金「夫れでは何方へお出でになります」若「予の王は右大將頼朝公の末弟にして幼名牛若丸と申し成長の後源義經……」金「八艘飛などは前以てお断り申して御座います」若「何うあつても不可んか」金「不可ません」若「さう云はずに八艘飛を一遍だけやらして呉れ」金「不可ません」若「只だ一遍だけぢや」金「不可ません」一遍も半分も不可ません」若「八艘飛の出來ん様な將棋なら負けぢや」金「お負けで御座いますか、夫れでは頭を此方へお出しあそばせ……イヤサ頭をお出し召され」若「ウム」金「家來衆は二つづゝで御座いましたが、石部は若君だけ特にお負け申して三つ打ちますぞ」若「そんなものは負けて入らぬわい」二度と再びそんな亂暴なことをしようと思しやらぬやうにと、忠義の腕うでに任まかして若君の頭を思ひ切り力を入れてポカ／＼／＼と三つ續け打に打つた若「ア、痛い／＼、石部、無禮な事を致したな、退れ／＼」金「ハ、ツ」若「ア、痛い、予は此の中より家來の頭を打ちしが皆斯程に惱むか」金「夫れが爲に妻子眷族の歎きは如何ばかりで御座いまするか、何卒盤將手合せの儀は御中止の程願はしう存じます」若「オ、止めた／＼……坊主盤將を焼捨て……」エライものですな、此邊が大名で御座います、モウ將棋は止める、將棋盤は入らんから焼捨て、しまへと仰しやつた、紙屑買が來たら賣つてしまへ、そんな事は云やしません、大名などゝ云ふものは實